

医療人類学から考える 「病気」の意味 フィジーの事例から



講師：佐々木 理世 氏

日時：2024年12月 4日(水) 13:00－14:30

場所：津田塾大学小平キャンパス 7406

※国際ウェルネスの講義中に実施します。
受講生以外の方のご参加も歓迎します。

医療やケアの課題は、世界中でさまざまな形で顕在化しています。特に、文化的な要素は、人々の経験する「病気」に多様な意味や文脈を与えています。

本講演では、文化がどのように「病の語り」の土台となり、「病気」に意味を持たせるのかを、フィジーの病や障害の事例を通じて紹介します。

佐々木 理世 RISE SASAKI

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (UCL) で医療人類学を専攻。高校時代をフィジーで過ごした経験から、フィジーにおける障害や病の捉え方を研究し修士号を取得。同大学で、デジタル人類学の研究プロジェクトのリサーチアシスタントとして務め、日本の農村地域における高齢者の健康に関する研究を行っている。